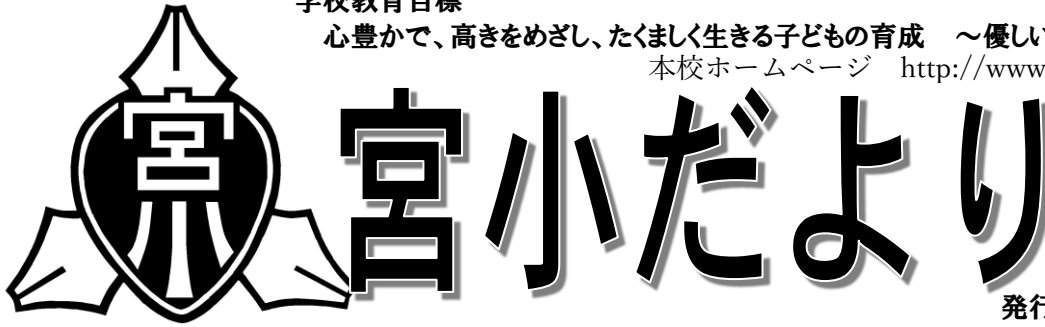


学校教育目標

心豊かで、高きをめざし、たくましく生きる子どもの育成 ～優しい子・考える子・丈夫な子～

本校ホームページ <http://www.sakata.ed.jp/miyanoura/>



令和4年4月20日号

発行:酒田市立宮野浦小学校

学校を自分たちでつくる

令和4年度は、48名の新1年生を迎え、319名の児童と30名の教職員で今年度がスタートしました。体育館で全校児童が顔を合わせての新任式・始業式。翌日は入学式も行い、やる気に満ちた子ども達の笑顔を見ることができて、とてもうれしく思いました。

7日の始業式では、『わくわく登校 にこにこ下校』できる学校になるために、「学校があるからいく から 学校を自分たちでつくる」ということを話しました。一人一人が想い、考えている「〇〇したい」にたっぷり学び浸ることが、やがて「自分をつくること」につながっていきます。子どもたちに、いかに「考えたい」「話し合いたい」と思わせることができるかが重要だと考えます。

例えば、低学年生活科の学習では、子どもたちの思い・願いを大切にします。子どもたちが対象に関わる中で、「もっと〇〇したい」という意欲（思い・願い）が生まれ、その実現に向け工夫をして更に対象に関わっていきます。子どもたちはこの過程を繰り返すことにより、ますます自己の思い・願いを膨らませ、夢中になって対象に関わり続けていきます。高学年であれば、自分たちで活動を起こして、学校生活を楽しいものにしていくことができます。「学校でこんなことができるの?」ということも、担任をはじめ教職員全員と一緒に考えていきます。

一方で、新型コロナウイルス感染症の収束にはまだ時間がかかりそうです。これからの学校は、やれることからやっていくという手法へシフトしていく必要があります。「保証」から「最大限の努力」に変えていくということです。これまで当たり前だと思っていたことを手放して、少しだけ前に踏み出してみる。いつもとは違うことに取り組んでみる。新しい人や新しい領域に関心を持って触れてみる。これが『わくわく登校 にこにこ下校』につながっていきます。

8日の入学式では、絵本『おおきくなるっていうことは』の読み聞かせ（一部抜粋）を行いました。小学校に入学し、子どもたちはおおきくなったことを意識し始めています。そこで、大きくなることの本当の意味を考えて欲しいと思いました。先を考えることができる力・様々なことに興味を持って取り組む力・思いやりの気持ちを持って接する力 等一人一人が考えて行動できる宮野浦小学校の子どもになっていってくれるはずで

す。
子どもたちは成長途中で、失敗もたくさんあります。だから、《教育》の必要があります。《対話》の必要があります。子どもたち、保護者、地域、教職員、みんなで「学校を自分たちでつくる」という視点で、宮野浦小学校を応援していただければと思います。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

校長

